

Sonica DAC の活用(11) —アモルメットの適用 (1) —

1. 始めに

アモルメットの適用については、[アモルメットの導入シリーズ](#)で報告して来ましたが、アモルメットの内径の関係から対象外となっているのは USB ケーブルと LAN ケーブルです。今回、内径の大きな NS295 が発売されたことから、Sonica DAC の再生における LAN ケーブルへの適用を検討します。なお、USB ケーブルには既に iPurifier2 (Type B) を使用していることから対象外としました。

2. アモルメットの試聴方法

ネットワーク関係で LAN ケーブルを使用しているのは、ルーターと NAS の FIDATA HFAS1-S10 の間とルーターと Sonica の間で、前者には LAN リベラメンテを、後者には独テレガートナー社の MFP8 GOLD を使用しています。音楽信号は最終的に Sonica に入力されますので、使用している LAN ケーブルの独テレガートナー社の MFP8 GOLD の Sonica の LAN 入力端子付近にアモルメットを嵌めようとしたのですが、MFP8 GOLD の端子が大きく NS295 が入りません。そこで LAN ケーブルを入れ替え、ルーターと NAS の FIDATA HFAS1-S10 の間は MFP8 GOLD を、ルーターと Sonica の間は LAN リベラメンテを使用することにし、LAN リベラメンテの Sonica の LAN 入力端子付近にアモルメットを通すことにしました。

音源としては、HFAS1-S10 から 2.8HzDSD や 192KHz24bitWAV の再生として、アモルメットの有無について音質を比較します。

3. アモルメットの試聴結果

まず、LAN ケーブルを入れ替えた時点で音が変わり、DAC である Sonica への接続が MFP8 GOLD から LAN リベラメンテに代わった時点で、間接音が豊かになり、音に躍動感が出てきます。恐らくルーターからのノイズを防止する効果が MFP8 GOLD より LAN リベラメンテの方が高いものと推察されます。さらに LAN リベラメンテの Sonica の入力端子付近にアモルメットを通しますと、その傾向はさらに強まり、艶とか、迫力とかが向上します。

4. まとめ

アモルメットの Sonica への入力用 LAN ケーブルへの適用効果が確認できました。

以上